

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2018 年度 共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2019 年 4 月 日 提出

1. 研究課題名	
黎明期広告業界誌『プレスアート』広告現物の研究 (英文表記: Study on advertising materials that early advertisement trade journal " Press Art " distributed)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
竹内幸絵(たけうちゆきえ)	同志社大学 社会学部 教授
3. 研究分担者 (合計: 名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
佐藤守弘	京都精華大学 デザイン学部 教授
熊倉一紗	京都造形芸術大学 美術学部 非常勤講師

4. 研究課題の概要
<p>本研究は昭和 12(1937)年に広告現物の頒布を目的に京都で創刊された広告業界誌『プレスアート』の調査とデータベース化によって、広告表現を時代意識の有力な証言者と位置付けた探究に資することを旨とするものである。同誌は戦時 5 年の停止期をはさみ昭和 61(1986)年まで、およそ 45 年間月刊で発刊された。発行部数が極めて少なく幻の存在だったが、334 号分、およそ 6 千点に及ぶ広告現物のほぼ全てが発行人遺族宅にて発見された。同時期の広告現物資料としては比肩する類例がないこれらを、本研究で調査しデジタルデータベース化する。付属冊子に記載の発行年、印刷種別、制作経緯等とあわせみる事が可能な形式を構築し、社会学・デザイン史・写真史・メディア史といった多方向からの学際的なアプローチが可能な広告史探究資料となることを目指す。</p>
5. 研究成果の概要
<p>今年度はローカル環境で制作していた二種類のデータの ARC サーバーへの移行と、調査成果を基にした広告展覧会及びシンポジウムを開催。研究会での発表も行った。概要は以下の通り。</p> <p>1、データベースのサーバーへの移行 (1)「プレスアート」広告データベース :『プレスアート』(解説冊子)344 号の全ページを pdf で掲載 (2)「プレスアート」解説書データベース :『プレスアート』頒布広告作品約 6000 点のスナップ写真と作品付帯情報のメタデータを掲載</p> <p>2、展覧会とシンポジウムの開催: いずれも場所:大阪府立江之子島文化芸術創造センター、 展覧会題名:『『プレスアート』と戦後関西の広告』展 期間: 2019 年 10 月 2 日～10 月 13 日 シンポジウム名称:関西広告を開梱(アンパック)する—『プレスアート』誌というアド・アーカイヴ 日時:2019 年 10 月 6 日(土) 13 時 30 分～17 時 30 分</p> <p>3、研究会での発表 表題「プレスアート研究会の事業—メディア史研究の史料・資料としての可能性を考える—」、2019 年 1 月、第 291 回メディア史研究会月例集会、日本大学</p>